

整理番号：7-1

提言題名：東京芸大生を活用したまちづくりについて

### 【提言要旨】

取手市は東京芸大の取手校があり、学生たちの知恵を市政に活かすことを希望します。若人の希望、夢を具現化させる為、ブレinstoーミングを実行し、やわらかなアイデアを市政に生かさなければ、取手市の未来はありません。今の市政、代議士に希望が持てない。

市役所に行って用事を済ますが職員は暗い。ただ月給をもらう為、時間を過ごしているように見える。課長以下担当者は日々の仕事をしているに見えるが、研鑽する姿勢が感じられない。

市役所インフォメーション横にある芸大北村先生の作品は市民として宝です。せまい所に展示されていますが360度正面、左右、バックから見られるようにしてください。

(令和6年10月 受付)

### 【回答要旨】

市・東京芸術大学・市民によって運営されている取手アートプロジェクトでは、芸大生や若い芸術家による柔軟な企画が多数実行されています。様々な視点での企画があるため、いろいろな市民の方々と若き芸術家との接点となり、やわらかなアイデアや感覚が市民の中に浸透してきていると感じています。

また、駅ビルアトレ4階「たいけん美じゅつ場 VIVA」は、芸大卒業生の優秀な作品を鑑賞できるオープンアーカイブがあるのみならず、作者本人によるアーティストトークなどで若き芸大卒業生の生の声に触れる機会があり、また近年では取手藝祭を「たいけん美じゅつ場 VIVA」まで拡張して実施することで、芸大生の作品、アイデアをより身近に見て感じる事のできる機会も創出されています。

市単独の事業としても、街の中の様々な場所に芸術作品を展示したり、市内の小中学校に芸大生を派遣して楽器の演奏や絵の描き方の指導をしてもらうなど子どもたちと若い芸術家との接点を作ったり、芸大生によるふれあいコンサート、記念演奏会、市長賞作品展示など、様々な交流の場も作り、芸術的感性や知識を培う機会も設けています。

さらに、言語化能力や論理的思考力の向上を目指し、アート作品を複数の人たちと対話しながら鑑賞するプログラムである「対話型鑑賞ツアー」を学校と連携して子どもたちと実施したり、市民の方々と実施したりするなかで、芸術作品をきっかけに多様な考えを認め合う言動や行動が育まれていることを強く感じ、

芸術作品はただ鑑賞するだけでなく創造力やコミュニケーション力など様々な能力を育成できる効果があることを実感しているところでもあります。この効果を市職員にも広げるため、新規採用職員研修に「対話型鑑賞ツアー」を取り入れ、近年入庁した職員にはアートの様々な可能性の実感と興味の拡張につながっていると考えています。そのような感覚を持った職員が増えることにより、日々の業務や市政にも良い影響が出てくるものと信じています。温かい目で応援頂ければ幸いです。

続いて、ご指摘にありました北村西望先生の「おかあさん」についてです。市内には「おかあさん」をはじめとして、優れた作品が多数あり様々な場所に展示されています。このような作品を市民の宝とおっしゃっていただけること、大変うれしく思います。

移動可能な作品などに関しては、展示場所を替えることもあり、今後も計画的に展示替え出来るように検討をすすめているところですが、固定されている作品に関しては、移動することが困難なのが実状です。

このような状況を改善する目的もあり、現地に赴かなくともインターネット上で作品を360度様々な角度から閲覧できる「とりでバーチャル美術館〈とばび〉」を公開しています。インターネット接続は必要ですが、パソコンでもスマートフォンでも、様々な芸術作品を自分の見たい角度からご覧頂くことが出来ます。もちろん作品そのものを直接見られることが一番良いのですが、直接見に行くことが困難な人でも、誰でもどこでも作品を鑑賞できることなどから、インターネット上での公開にも大きな意味があると考えています。もし可能でしたら、ご覧頂ければ幸いです。

(令和6年11月 文化芸術課回答)